

平成 25 年度自己評価シート(中間評価)

校番	44	学校名	広島県立黒瀬高等学校	校長氏名	田中 清裕	全日制	本校
----	----	-----	------------	------	-------	-----	----

学校経営目標					
達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等	
1 自律的規範意識を身につけた生徒を育成する					
生徒が自律的規範意識を身につけるように取り組む	(1) 各学期無遅刻者割合数	B	無遅刻者の割合は1学期 75.0%, 2学期 72.5%である。	主任・学年主任・生徒指導部	
	(2) 年間転退学者数	B	現在退学4名転出4名である。	主任・学年主任・生徒指導部	

【評価結果の分析】

(1)について

遅刻防止期間を増やしているが全校無遅刻日の回数が増えない。遅刻の少ないクラスの表彰をしている。

(2)について

目標を見失ったり学校生活での人間関係の悩みで退学や転出をしている生徒もいる。

【今後の改善方策】

(1)について

遅刻防止週間を利用して生活習慣を見直させ無遅刻の生徒を増やす。クラスで遅刻をしないムードを高める。

(2)について

学校生活の悩みや不安を解決していくよう指導や援助をして目標をもたせ展望を持たせる取組みをする。

2 主体的な学習により、自己を開発し、希望進路を実現する生徒を育成する					
生徒の基礎学力を向上させる	(1) 共通学力テスト平均通過率 60%以上の生徒 2年生人数	B	昨年度実施された共通学力テストの分析結果をもとに、各教科において授業改善計画を策定し、現在実施している。	教務部	
	(2) 共通学力テスト平均通過率 30%以下の生徒 2年生人数	B	昨年度実施された共通学力テストの分析結果をもとに、各教科において授業改善計画を策定し、現在実施している。	教務部	
	(3) 到達度目標、評価方法を示したシラバスの作成	B	平成25年入学者から到達度目標を示したシラバスを作成し、活用している。	教務部	
進路希望を実現させる	(4) 個人カルテを各学年で作成し面接を充実させる。就職率 100%達成を継続する。	B	3 学年については個人カルテを用いて進路検討会を実施済み。就職一次合格率は 80%(学校推薦希望者)である。	進路指導部	
介護員養成研修2級(2年)、今年度からはじまる介護職員初任者研修(1年)を確実に履修させ、効果的に知識技術の向上をさせる	(5) 介護の知識・技術の確認評価とプロセス評価を段階的に行い、修得認定者を 100%とする。	B	資格取得に対する意欲付けや、授業規律・服装・マナー、提出指導を行っている。 到達目標や学年に合わせた小目標を提示し定期考査を7割合格とし追試を課して知識技術の確認を行っている。	福祉科	

【評価結果の分析】

(1)(2)について

昨年度の共通学力テストの分析結果から本年度の授業計画を策定し、現在取り組んでいる。本年度、「基礎・基本の定着に向けた意欲の喚起」をテーマに、各教科において仮説、取組み方法を策定し、授業研究を行っている。

(3)について

本年度入学者の教育課程の内容について、到達度目標を示したシラバスを作成した。

(4)について

3学年については、1学期末に個人カルテを用いて進路検討会を行った。今年度は年度当初からJSTが配置され、就職希望生徒への指導や、教員対象の研修会などを実施した。就職一次合格率は全体では80%（昨年度72%）であった。

(5)について

授業規律を正し、定期考査7割未満者への追試を課して知識技術の確認を行っている。

【今後の改善方策】

(1), (2)について

本年度の共通学力テストの結果から授業計画の課題・成果を分析し、次年度の授業改善計画を策定する。

(3)について

到達度目標を明記したシラバスについて、内容やその活用方法について検討する。

(4)について

1, 2学年については、現在個人カルテ作成中であり、それぞれ2, 3学期中に、進路検討会を実施予定である。

(5)について

広島県の介護員養成研修2級課程の基準に到達させるよう、試験準備を知識・技術・対人マナーに対する指導を行う。

3 「元気な声が聞こえる学校」づくりを推進する				
生徒が部の活動に誇りを持ち、主体的、計画的に部活動を行う	(1) 実際に活動する生徒の割合(定着率)を増加させる。	B	年度当初の入部率が71.5%であるのに対し、現時点での入部率が70.3%である。実際の定着率は現在調査中である。	特別活動部
	(2) 体育部の県大会以上出場, 文化部の県レベル以上の入賞を増やす。(のべ回数)	B	体育部の県大会以上出場が5競技18種目であったが, 文化部での入賞がないことによる。	特別活動部
	(3) 社会貢献(挨拶運動・美化作業)を通じ, 部活動単位での活動回数を増やす。	C	挨拶運動に重点を置き, 割り当てを組んだが, その日程で部員が集まらず, 計画通りに実施できない日があった。述べ回数4回にとどまる。	特別活動部
豊田高校との学校間連携に係る教育内容を充実させる。	(4) 行事・部活動への生徒及び教職員の相互参加と交流	B	① 2学期において, 豊田高校での公開研究授業へ参加。本校での授業研究への豊田高校からの参加を計画している。 ② 3年介護実習報告会に豊田高校から生徒が参加し, 意見交換を行った。 ③ 1学期に, 合同の進路学習会を行った。3学期にも計画している。 ④ 相互の文化祭への訪問を行った。茶華道部の交流を行った。	全分掌 全教科

【評価結果の分析】

(1)について

1年生1学期全員入部の取組みにより、入部率と定着率が上がった。また体育館の完成によって練習環境が向上した。

(2)について

県大会以上という明確な目標設定が、分かりやすかった。

(3)について

挨拶運動のスケジュールは組んだが、各部員に徹底していなかった。

(4)について

学校連携 2 年目とうことで、教員同士の交流も進み、スムーズに行えるようになった。

【今後の改善方策】

(1)について

数字の上では全員入部のために入部率は高くなっているが、実際の定着率を維持できるような工夫が必要である。

(2)について

各部活動においての目標設定を明確にして、更なる上位の結果を狙い活性化につなげたい。

(3)について

部活動以外での評価が高まること、部活動への周囲の注目度を高めることを伝え、モチベーションをあげる。

(4)について

表面的なものにならないように、充実した内容に改良していく。

4 地域社会に貢献する生徒を育成し、地域に関わった学校づくりを行う				
広報活動を充実させるとともに、中学生・保護者から選ばれる学校をつくる。	(1) 普通科・福祉科とも、選抜(Ⅰ)(Ⅱ)の志願倍率を 1.0 倍以上にする。	B	広報活動は計画どおり実施しているが、オープンスクールの参加者数は昨年度より減少した。	総務部
地域に貢献するボランティア活動を充実させる。	(2) 園芸活動への参加を増やす。	A	クリーンアップや掃除時間を利用して活動している。参加人数は 126 名で、ほぼ目標を達成しつつある。	生徒指導・総務・特別活動・各学年会
	(3) 普通科生徒のボランティア活動参加者を増やす。	B	各クラス担任を通してその都度参加者を募り参加活動を行った。11 月 1 日現在のべ 45 名の生徒がボランティアに参加している。	特別活動部
	(4) 福祉科の学習をボランティアや地域活動に展開し、福祉科生徒の参加率(参加人数/生徒数)をあげる	B	東広島市社会福祉協議会等と連携し、老人クラブ、女性会を中心に交流した。文化祭・体育祭への参加交流、さつまいもの栽培交流、10 月黒瀬町健康福祉まつり、12 月に障害者(児)クリスマス交流会のボランティアがある。参加率 125% (90/72 人)である。	福祉科

【評価結果の分析】

(1) について

生徒募集の工夫をしたが、オープンスクールの参加生徒数は前年度よりも若干減少した。

(2)について

掃除時間やクリーンアップを利用して活動している。

(3)について

障害者のスポーツ大会の補助や赤い羽根募金など、生徒は自主的にボランティアに参加をした。

(4)について

東広島市社会福祉協議会等と連携し、さまざまな行事に参加し活動した。生徒は積極的に参加している。

【今後の改善方策】

(1)について

学校説明会を通して、中学校 3 年生の三者懇談会前に本校の PR をしていく。

(2)について

クラスの美化委員を活動させているが、自主的な参加者を増やしたい。

(3)について

できるだけ多くの生徒に体験させてやれるよう生徒に働きかけをする。

(4)について

引き続き、ボランティア活動を積極的に進めるよう、多くの生徒の参加を促し、生徒を指導する。

平成25年度学校関係者評価シート(中間評価)

平成25年12月3日

校番	44	学校名	黒瀬高等学校	校長氏名	田中 清裕	全日制	本校
----	----	-----	--------	------	-------	-----	----

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ○目標・指標・計画等の設定の適切さについては概ね適切であると思う。 ○社会に出た時、無遅刻は社会人として最低限守らなければならない事を引き続き生徒に教えてほしい。 ○挨拶についても社会に出た時、「自分から挨拶が出来る事の大切さ、コミュニケーションの必要性」を教えてほしい。
計画の進捗状況の評価の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ○目標の設定自体が高すぎるため達成されていない項目があるのではないかと。設定を見直す必要がある。民間の製造業では製品の製造工程を途中で確認見直しをしている。 ○無遅刻の指導を続けてほしい。 ○豊田高校との交流について引き続き、生徒同士が良い刺激・感化される機会を作ってほしい。
目標達成に向けた取り組みの適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ○きめ細やかな取り組みがされており、良いと思う。 ○ボランティアに参加することで地域の方々にも元気な黒高生を肌で感じてもらえたら、今年はいく挨拶をしているので、「挨拶をしない。」等の黒高生への悪いイメージや固定観念を払拭できると思う。
評価結果の分析の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ○評価結果は、ほぼ的を得ているように思う。結果が悪くなると予測される場合は軌道修正するべきである。 ○運動部も引き続き、目標に向けてのモチベーションを維持して頑張ってもらいたい。 ○ボランティア参加人数など延べ人数も大切ですが、出来るだけ多くの生徒たちが参加できるよう、声を掛けてあげて参加を促してほしい。
今後の改善方策の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ○今後の改善方策は、ほぼ的を得ている。分析に誤差が生じたら適切な対策や改善が望めないなので、分析をしっかりと下され。 ○どうしても文化祭中心になりがちな文化部は、文化祭以外での成果を発表する場などがあれば、部員への励みにもなる。7割の生徒がクラブに入部している事実は、保護者としても嬉しい。 ○学校内だけでなく、校外でも積極的に挨拶をするよう指導してほしい。
総合評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ○総合評価としては年々よくなっていると思います。通学時の挨拶・態度もよくなっています。 ○先生方には子供たちのために、常に尽力いただき、保護者の一人として頭の下がる思いです。今回は授業も見せていただき、「生徒が楽しく勉強しているな。」と、感じました。遅刻回数や共通学力テストの県平均との格差、携帯・ラインなどの使用方法の問題など問題山積だと思いますが、これからも指導を引き続きよろしくお願いいたします。